

二〇二二年度オンライン展  
「Cheer! Cheer! Hurray!  
川崎のスポーツ史展」 霜村光寿

Column  
コラム

川崎のスポーツ史展

霜村光寿

近年、スポーツに関する関心は世界的に高まっています。

川崎市は「誰もがスポーツに参加し、スポーツの楽しさを味わうことができる『スポーツのまち・かわさき』の実現」を目指しています。戦後、川崎には川崎球場や等々力緑地など競技場が設置され、市民に親しまれています。これらの「場」を中心として、明治以降の川崎におけるスポーツのあゆみをたどるオンライン展を企画・開催しました。

戦前はスポーツの萌芽と地域の関係として、学校や青年団における運動会を取り上げ、運動会で使用されたとされる足袋などを展示しました。戦後については、川崎も会場となつた第一〇回国民体育大会(国体)の様子を収めた映像、開場後の川崎球場や等々力陸上競技場の写真などを展示しました。国体などの映像は、川崎市映像アーカイブとして公開されています。同アーカイブへのリンクとして展示し、オンラインならではの特性が活かせたものとなりました。

また、二一世紀の川崎のスポーツにも触れ、「かわさきスポー

ツパートナー」各チームのご協力を得て、各チームの川崎とのつながりを振り返るとともに、現在活躍する選手も紹介することができます。近年の収蔵品では、令和三年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックで使用されたリレートーチや聖火リレーのユニフォームも展示しました。

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催もあり、各地の博物館・美術館ではそれに合わせた形で地域のスポーツやその歴史に関する展示がされました。川崎市市民ミュージアムではこれまで、スポーツの歴史に関する展示は行わせていました。今回の展示で、川崎とスポーツのつながりは深く、現在に至るまでに、戦前から戦後にかけての川崎の工業化とも密接な関係があったことを改めて確認する機会となりました。また現在、多くの市民の皆様が川崎でスポーツに親しんでくださっているのは、こうした歴史があればこそであったことを知っていただくものとなつたと考えています。



東京2020パラリンピック聖火リレートーチ(左)  
東京2020オリンピック聖火リレートーチ  
(川崎市市民ミュージアム所蔵)

応急処置から修復へ 貝塚建

川崎市市民ミュージアムで行われている収蔵品レスキュー活動は、現状以上に損傷や劣化が進まないことを目的とした応急処置作業である。しかし、限定的な応急処置しか行えないほど脆弱化しているものや、作家の表現そのものが著しく損なわれているもの、使用されている材料の取り扱いが困難なものなど、専門家による本格的な修復処置が必要な収蔵品は少なくない。

一一 優先順位

修復業務を進めるにあたっては、当館各分野の担当学芸員と川崎市職員が会議を開き、修復機関を選定し、意思決定がなされている。修復対象の収蔵品数は膨大であり、まずは「何から先に修復していくべきか」を決めていかなければならない。修復技術者の立場から言えば、仮保管の期間や応急処置の状況を鑑み、より劣化の速度の速いものから修復していくことをまず考える。ただし修復にはある程度の時間が掛かり、修復機関の受容数にも限りがある。被災収蔵品は多数、多種多様であり、選別は困難を極める。

一方で学芸員の立場から言えば、救いたい順番が存在する。収蔵品によっては希少価値と歴史的、学術的な価値に差があり、評価額にも差がある。また展示、研究対象として活用の可能性が高いものを選んでいかなければならない。無論財源は有限なので、優先的に修復するための根拠を状態や来歴、活用性などから説明できなければならぬ。